

うるま市議会 だより

第14号

平成20年(2008)
発行/12月1日



金武沙也香副議長



久保田明成議長



宣言決議を宣言する照屋優人議員

「市民の一人として、うるま市を愛しお互いの幸せを願い、
一人一人が希望に満ちた魅力あるまちづくりを心がけること」

※うるま市こども議会宣言決議より



11月8日に開催された「うるま市こども議会」の様子

一般質問(9月定例会)

9月定例会には、21名の議員が市政全般について一般質問を行いました。本紙面は、「市議会だより」申し合わせ事項により掲載されています。紙面の都合上、簡潔な表現になっております。なお、詳しい内容については市議会会議録を自治公民館、市内図書館、議会事務局、議会のホームページでご覧ください。

目

次

うるま市こども議会宣言決議……………	2
一般質問……………	3
第40回定例会・第41回臨時会議決結果…	14
第42回定例会付議事件名……………	15
平成20年うるま市こども議会……………	16

■発行：うるま市議会 ■編集：議会広報編集調査特別委員会

住所 〒904-2292 うるま市みどり町1-1-1 電話 098-973-3511 FAX 098-973-8123

うるま市子ども議会 宣言決議

市民、一人一人が希望に燃え、健康で笑顔が輝く
住みよいまちづくりのために力を尽くすための決議

私たち中学生は、学校や社会において広い視野と洞察力を身につけ、うるま市を担う原動力になっていかなければなりません。

そのため、私たちの住むうるま市の自然や文化、福祉、行政などに一層関心を高め、色んなことを調べ、考え、知識を深めるとともに、自ら表現できる力を向上させていきます。

私たちうるま市子ども議会は、市民の一人として、うるま市を愛しお互いの幸せを願い、一人一人が希望に満ちた魅力あるまちづくりに心がけ、次のことを宣言します。

一 すこやかで、心のかよう家庭、だれに対しても思いやりの心が

もてる助け合うまちづくりを目指します。

一 一人一人がマナーを守り、花と緑に囲まれたきれいな住みやすいまちづくりを目指します。

一 ものを大切にし、きまりを守る住みよいまちづくりを目指します。

一 働く喜びを知り、自分の役割を果たす活力あるまちづくりを目指します。

一 うるま市の伝統・文化に誇りを持ち、文化のかおり高い魅力あるまちづくりを目指します。

以上決議します。

平成二十年十一月八日

うるま市子ども議会



▲次代を担う平成20年子ども議会議員たちの勇姿



一 後期高齢者医療制度問題について
 二 米原潜放射能漏れ問題について
 三 運営補助金について
 四 具志川野外レクセンター廃止問題について
 五 原油高騰による支援策について
 田中直次たなか なおつぐ



一 中原小学校校舎増改築関連工事
 二 米の消費拡大について
 又吉 暎またよし あきら

一 後期高齢者医療制度問題について

質問 年金収入が百八十万円未満の後期高齢者の保険料を、その子供が代わりに口座振替にすると、所得税などが減税されますか。

答弁 市民部長 うるま市でも同様に所得税、住民税、県民税の税額が軽減される。その税の減額の合計は二万八千八百円となり、現行よりその分負担軽減になる。

質問 ほぼ同一収入なのに保険料負担に格差があることについて伺う。

答弁 市民部長 うるま市にも類似した事例はある。夫婦二人A世帯収入三百七十万円の場合、保険料は十万二千三百八十五円。B世帯収入三百十八万円の場合、保険料は六万二千四百六十六円で、A世帯が三万九千九百十九円高い。

二 米原潜放射能漏れ問題について

質問 原潜の放射能漏れのモニタリング結果については、アメリカはどんなことがあっても「異様な放射能数値」を出さないように要求しているのではないか。

答弁 市長 うるま市としては、そのように安全性が確認されたという米軍側の公表があっても、あるいは

日本側の公表があっても基本的には原潜の入港はまかりならないという考えです。

三 運営補助金について

質問 社会福祉協議会や老人クラブなどの補助金の減額は、高齢者や社会福祉活動に影響すると思われるが。

答弁 福祉部長 平成十七年度決算と比較して八百万円余り、減となっている。社協の自助努力について行政として協力をし、社協の運営に支障がないように努力をしていきたい。

四 具志川野外レクセンター廃止問題について

質問 具志川野外レクセンターの廃止は、合併時に市民に約束したことと違い、市民サービスの低下ではないか。

答弁 企画部長 既存の類似施設並びに新たに建設、設置される施設等への機能の分散が可能。

五 原油高騰による支援策について

質問 農漁業者や他産業、企業への支援について。

答弁 経済部長 平成二十一年度に事業実施を予定。「燃料高騰対応緊急浮き漁礁漁場整備事業」の事業内容ですが、設置は五基を予定している。

一 中原小学校校舎増改築関連工事等について

質問 (一) 進捗状況と供用開始 (二) 外構工事(東側斜面及び水泳プール跡地の利活用) (三) オープンシステムの成果について伺う。

答弁 教育部長 現在の進捗状況についてA棟四十五%、B棟三十五%の進捗率。C棟は発注したばかりで床掘り工事で約三%である。屋内運動場と水泳プールは解体工事中でその後プールと体育館を併設する。外構工事東側は十月完成をメドに擁壁工事中である。擁壁上の広場にC棟から屋外階段を設けて渡れるようにする。プール跡地は早期に設計、工事に着手し年度内に完成したい。供用開始については、完成検査後A棟B棟が二月中旬、C棟は三月中旬頃見込んでいる。屋内運動場及び水泳プールは三月の卒業式に間に合うよう早期完成を目指し協議していきたい。

答弁 指導部長 オープンシステムの成果について①学習空間が広がり多様な学習形態に対応できる。②広いスペースに種々の教材の展示ができる。③学習機器の効果的活用及び学年の各学級間との交流を通じた合同授業の効果。④授業参観の有効活用等々の効果がある。

二 米の消費拡大について

質問 食の自給率(現在四十%)向上は国内で百%以上生産できる米の消費拡大が急務だと思うが、行政の考え方対応について及び食育という視点から学校給食と米飯について伺う。

答弁 経済部長 米の消費拡大について特別な予算を計上してないが、今後国や県、JA等へ情報提供し、消費拡大に努めていきたい。

答弁 指導部長 学校給食では、週三回の米飯給食を実施し、大体給食の半分の量のカロリーを主食、米飯で占めている。子供たちの人気メニューはカレーライス、タコライス等が上位となっている。



▲供用開始に向け工事も急ピッチ！中原小学校



松田 久男

- 一 行政コンタクトセンターについて
- 二 原潜放射能漏れの最終報告通報について
- 三 期日前投票所の削減について
- 四 インターナショナルスクールについて

一 行政コンタクトセンターについて

質問 市の財政再建、行政改革に対して有効な方法と考えている行政コンタクトセンターについて三月議会では年度内の可能性調査を行うと答弁があったが、進展はあったのか。

答弁 企画部長 検討の結果二十二年度に予定されている組織再編を確認しながら調査の実施時期を再検討したい。

質問 組織再編があるならば、なおさら調査の必要があるのではないか。進行中のイントラネット整備とも関連するのではないか。

答弁 企画部長 組織再編を確定しないと検討しにくいと考えている。

二 原潜放射能漏れの最終報告通報について

質問 米軍からの最終報告書中の自然界に存在する放射能とは幾らか。一回あたりのエックス線胸部撮影放射能濃度とは幾らか。漏れた放射能が微量であるという根拠は何か。バルブの厳格な性能基準が満たされたと言う根拠は何か。

答弁 企画部長 自然界における放射能は沖縄では0.95ミリシーベルト。一回のエックス線撮影は0.05ミリシーベルト。微量であるとの根拠はその濃度が自然界と同程度であること。当市で漏れた量が6.3ベクレルであり

一回のエックス線撮影より少ないこと。

質問 資料の中ではシーベルトではなくベクレルやマイクロキュリーで表されており情報の比較もできない。整理すべきである。また米軍報告の原文がネットで公開されているがそれを翻訳検討したか。国や県からの一方的な説明のみでは市民にも説明できない。

答弁 企画部長 外務省に翻訳を求めたが返答は無い。職員で対応できるか、その他の方法も検討したい。

三 期日前投票所の削減について

質問 六月議会において選挙管理委員会に報告するとの答弁であったが委員の見解はどうか。投票率向上の為に元に戻したほうが良い。

答弁 選挙管理委員会事務局長 現状の職員体制では元に戻すのは難しい。

四 インターナショナルスクールについて

質問 うるま市は用地と既存施設の提供、沖縄県は建設費の負担、旺文社は運営費の負担となっているが、それ以外に市の負担は増えないか。また代替施設はどこに求めるのか。

答弁 企画部長 覚書に従ってこれ以上の負担は無いと考えている。代替施設は各地の体育館やIT支援センター、市民の森公園などを活用し分散、移設などをしてほしい。



西野 一男

- 一 インターナショナルスクール設置について
- 二 与勝地下ダムについて
- 三 栄野比区九班の生活道路について

一 インターナショナルスクール設置について

質問 平成二十三年四月を目途に開校するインターナショナルスクール設置経緯について次の七点を問う。
一、調印までの経緯。
二、事業の概要。
三、スクール編成。
四、旺文社とうるま市との役割。
五、設置箇所(野外レクセンター)の利用。
六、開校後のうるま市との関わり。
七、うるま市のメリット。

答弁 企画部長 一、平成二十年一月から旺文社と県との調整で条件整備を経て七月二十五日に覚書に調印した。
二、国際的教育環境の提供と沖縄科学技術大学院大学の周辺整備計画における教育機能を持つ機関である。
三、学校教育法で規定する幼稚園、小学校、中学校の課程を持ち、国際バカロレアの認証を受けた一貫校である。
四、沖縄県は校舎建築費の補助と募金、旺文社は初期運営資金の準備と運営、うるま市は用地の六ヶ年間の無償貸与である。
五、八・七ヘクタールに配置計画をするが、具体的にはお答えできない。
六、スクール財団で検討されることに共同参画をしていく。
七、多国籍の人々と英語を中心とした教育で地域活性化を図っていく。

二 与勝地下ダムについて

質問 このスクール設置を契機にうるま市の子供たちの特別枠での入学ができれば検討してほしい。また、琉球国王「尚温」の建学精神で人材育成をうるま市の子供たちに進めて頂きたい。

答弁 企画部長 イマージョンコースでうるま市の子供たちに特別枠ができないか要望していきたい。

三 栄野比区九班の生活道路について

質問 与勝地下ダムの導水管路布設計について、平敷屋地区が当初計画より変更になっているがなぜか。

答弁 経済部長 与勝線付近で地権者の同意が得られず路線変更をした。県道八号線で米軍の通信ケーブルがあり調整に時間がかかった。

質問 供用開始までの暫定的な給水施設ができないか。

答弁 経済部長 何らかの形で非受益者に供給できるように県と調整していきたい。



一 公共施設管理運営について
二 待機児童対策について

島袋 行正
しま ぶくろ こうせい

一 公共施設管理運営について

質問 二〇一〇年実施の高校総体は、うるま市で相撲会場とサッカー会場が割り当てられているが、大会終了後の管理運営の方法は。

答弁 教育部長 指定管理制度の導入を検討していきたい。

質問 この二施設の工事の進捗状況は。また、相撲会場の具志川ドーム（仮称）に名前をつける予定は。高校総体を機に、うるま市を活性化させる為に「サッカーのまち」宣言をしてＪリーグを誘致してはどうか提案したい。

答弁 教育部長 サッカー会場の与那城陸上競技場は、芝の張り替えの設計を発注している段階です。今後の活用方法は、本土のクラブチーム、大学生、高校生等の合宿の誘致をサッカー協会と一緒に進めていきたい。また「サッカー都市宣言」は、高校総体を盛り上げる為にも大会前に、サッカー協会と進めていきたい。

答弁 都市計画部参事 サッカー会場具志川運動公園多目的場と、屋内運動場建設工事の進捗状況は

八十七％に達しています。施設の名称については今は、検討していない。

二 待機児童対策について

質問 待機児童対策で、国は基金を創設し、県は条例を制定し、認可保育園を増やす方向にありますが、本市はどの様な考えですか。

答弁 福祉部長 定員増、定員の弾力化等による待機児童対策を推進しているところです。認可化については、今後の少子化等による児童数の動向を見ながら対応していきたい。

質問 今年度は、本市ですでに百六名の待機児童がいるが、認可促進を考えないのか、又は定員見直し等は。

答弁 福祉部長 定員六十名の場合、三十名増やして定員を見直し九十名にすると、園の増改築が伴う。長期的な弾力化は避けたい。また待機児童の多い地域から考えていきたい。県の条例可決後、説明会を受けて、本市がどのような対応ができるか検討したい。現在は、弾力化と定員見直しで考えている。



一 ファシリティマネジメントについて
二 ふるさと納税制度について
三 債権管理について
四 介護保険事業計画の策定について
五 単品スライド条項について
六 与勝地下ダムについて
七 学校運営協議会について

仲本 辰雄
なかもと たら お

一 ファシリティマネジメントについて

質問 単年度ごとに維持管理対策をとり、将来負担するコストを削減できない。研究し検討を重ねることによって、よりよい結論が導かれると思うが。

答弁 総務部長 点検録や修繕記録などの管理方法について、今後他自治体の具体的な取り組み内容や事例などを参考に、統一的な施設管理台帳などの整備に向けて、関係部署で調整をしていきたい。

二 ふるさと納税制度について

質問 条例を制定する考えはないか。

答弁 企画部長 いろいろ考慮しながら検討していきたい。

三 債権管理について

質問 市が徴収すべきものについては、債権と考えている。徴収管理はそれぞれ所管する部署で行っているが、一つの部署で集中管理することが考えられないか。

答弁 総務部長 市税も債権の一つであるとして厳しい状況下にあり、そこに使用料や保険料及び徴収金が増えると、職員体制や事務体系等から勘案して、集中管理することは現段階ではかなり厳しい。

四 介護保険事業計画の策定について

質問 第三期の介護保険事業計画の要介護認定者は。

答弁 福祉部長 平成十八年度百三十名、十九年度で二百名ほど上回っている。

質問 保険料は第三期計画と比べた

ら増額、減額のどちらになる見込みか。
答弁 福祉部長 高齢者人口、要介護認定者は第三期より増えるものと想定されるので、保険料算定の基礎となる介護給付費は伸びていくと考えられる。そのことから、第四期の介護保険料は増額になることが推定される。

五 単品スライド条項について

質問 その後どのようになっているか。
答弁 都市計画部長 運用する旨を関係部署に通知した。

質問 契約時に単品スライド条項を説明することが必要である。

答弁 都市計画部長 今後発注する工事の契約時に工事請負契約書第二十五条第五項の趣旨を説明していきたい。

六 与勝地下ダムについて

質問 工事が遅れていることに苦情が出ているが。

答弁 経済部長 地元農家への説明会を、改良区と県とも日程を調整して開催していきたい。

七 学校運営協議会について

質問 設置したことで、学校を生涯学習の場として生かしているという成果がある。設置する考えがあるか。

答弁 指導部長 地域連携を築く、学校参画ということでは必要性を十分認識しているが、開かれた学校、地域連携のための評議員制度や学校評価のあり方を今後も継承していきたい。学校運営協議会は、導入も含めて調査研究を続けていきたい。



一 福祉行政について
二 教育行政について
三 安全対策について

伊盛 サチ子

一 福祉行政について

質問 預かり保育について、

(一) 預かり保育の定数見直しの経緯。
(二) 臨時職員の待遇改善について。
(三) 夏・春休み時の勤務時間の延長について。

答弁 指導部長 (一) 現在平均二十六名、状況を見た時、定数二十名という事では対応できない。三十名の定員で実施。(二) 予算面等も絡んでくるので、実態等を考慮しながら考えていきたい。(三) 預かり保育の状況を勘案しながら考えていきたい。

質問 総合福祉センター内での作業所製品の販売・飲食店の設置について。

答弁 市民部長 展示スペースの一角を利用するなど可能と考えている。飲食店は調理用換気設備がなく、外部で調理した物を販売することになる。設置許可について検討を十分重ねる必要がある。

質問 石川地区における①作業所への行政支援は。②利用状況の低い作業所への周知・指導について。

答弁 福祉部長 ①活動できるよう支援をしていきたい。②基本的には利用者の掘りおこしを行う必要がある。周知等呼びかけて一緒にやっていきたい。

二 教育行政について

質問 (一) 幼稚園の臨時職員対応での現状について。(二) 定数枠内での正規採用について。(三) 臨時職員の待遇改善について。

答弁 指導部長 (一) 前年度の定数六十名、うち臨時職員での対応十一名。(二) 市全体を見据えての対応をしていかなければならない問題。(三) 預かり保育も含め、学校・幼稚園の現場の状況を見ながら対応。

質問 老朽校舎の改築と耐震化促進の取り組みについて伺う。

答弁 教育部長 今後財政局と調整し、調査を行いたい。

質問 勝連、平敷屋、南原幼稚園のクーラー設置について伺う。

答弁 教育部長 南原は校舎整備の後にやるか、並行してできるか、県防衛局と調整していききたい。平敷屋、勝連については、他の施設等のクーラーが振り向けられるか、検討したい。

三 安全対策について

質問 宇堅ビーチ遊泳時の管理体制強化の指導について。

答弁 消防長 宇堅ビーチの管理事務所職員に対し、普通救命講習会を実施し、水難事故防止に当たるよう指導している。

一 沖縄振興計画について

質問 沖縄振興計画も残り期間の政策の中に本市が抱える政策的課題、「うるま市の総合計画」に反映しているか、更には今後の取り組みについて伺う。

答弁 企画部長 沖縄振興特別措置法の優位性を活用して小中学校施設整備や多くのうるま市の事業も可能な限り活用するという観点で事業を採択している。

質問 振興計画が残り五年余りの中で次年度に向けたうるま市の役割を伺う。

答弁 企画部長 これからは産業の振興、雇用の促進、人材育成、その他の職業の安定、教育文化の振興をうるま市として優位な事業として取り組みたい。

二 基地問題について

質問 原子力潜水艦ヒューストンの冷却水漏れに対し、うるま市議会は徹底的に抗議し、今後の経過や安全性が確保されるまで入港を認めないと米軍に求めたが聞き入れられる余地はない結果が出ている。我々は市民に安心・安全を与える義務がある。米軍基地に対する危機管理体制を伺う。

答弁 企画部長 うるま市の地域防災計画の第六章の方に原子力災害応急対策計画を基本にして、対処することになっている。また、消防本部や総務部と連携を図り災害対策本部を設置して緊急時には全庁体制で対処する。

三 少子高齢化対策について

質問 現在の待機児童数・対応策について伺う。

答弁 福祉部長 待機児童は九月現在で百六十八人、今後においては既存の保育園の定員枠の拡大等を考えている。

質問 保育の預かり時間について伺う。

答弁 指導部長 保育の時間としては幼稚園の教育課程の終了から十七時三十分までです。

質問 AED(教育・保健・老人・公共施設)の関連施設対策について伺う。

答弁 福祉部長 関連施設は与那城の平安座と上原の老人福祉センター、伊計島老人憩いの家の三施設にありますが。保育施設はなし。介護施設は、八施設のうち六施設を設置。他の二施設は検討中です。

四 公共工事について

質問 中小零細企業や特に小規模事業者においては大変厳しい経営が続いている。元請業者に活用方法として地元優先であるか現状と対応策について伺う。

答弁 都市計画部長 一部工事においては下請けが市外業者で行われているのが現状です。元請業者に対しては下請け業者の優先活用は指導できないが、協力をお願いは可能だと思ふ。



一 沖縄振興計画について
二 基地問題について
三 少子高齢化対策について
四 公共工事について

中村 正人



一 具志川漁業組合からの港湾整備に関する事項について
 二 県道三十七号線道路拡幅工事に関連する事項について
 三 うるま市定員適正化計画における消防職員削減計画に関連する事項について

金城 勝正
きんじょう かつまさ

**一 具志川漁業組合からの港湾整備に
関連する事項について**

質問 同組合からの三項目の要望に対して、県サイドではどのように検討されたかについて伺う。

答弁 建設部長 先ず港湾内の道路整備、市道二の八十八号線から港までの道路については、平成二十年三月に舗装工事を完了している。二点目の船溜まりの浚渫については、地元と連携を図りながら対策を検討した上で、可能なものから対応したい。三点目の船揚げ場の斜路の改善については、できる分については早めに対応したいとの回答でした。

**二 県道三十七号線道路拡幅工事に
関連する事項について**

質問 県は今年度の計画として、県が三案から四案の拡幅工事の設計図を作成し、それを当該地域住民に提案し、その中からより受け入れられる案を選択していく方向性が示されたが、このことについて、市当局の説明を伺う。

答弁 建設部長 県道三十七号線に関する調査、設計委託業務が具志川側、屋慶名、それから屋慶名橋と三件発注されており、その調査の進捗状況をみながら、今後その具体的な案が提示されるものと思う。

質問 多くの権利者がいる中で、どのように設計案を絞り込んで、設計決定まで導いていくのか。

答弁 建設部長 県の基本的な意向としては、幅員の狭小部分箇所から優先的に改善を図りたいというよう

な形で、安全で経済的な道路をつくるための比較検討案を策定し、市や地域の意見を踏まえて、設計案を決定する予定ということです。

**三 うるま市定員適正化計画における
消防職員の削減計画に
関連する事項について**

質問 市当局は今回の定員適正化計画で「行政改革大綱に位置づけられた庁内分権の方針を反映するように」と定めた、基本的な考え方に自ら反するような進め方をしているが、このようなことが許されるか。

答弁 総務部長 市全体で三百人削減を前提とした中での当初計画であり、各部長の意見、要望のすべてを反映することは無理な面がある。継続して計画を進めながら毎年度のローリングの中で柔軟に対応することを前提に策定されたものであると理解してほしい。庁内分権については、しっかりと推進していきたいと考えている。



一 公共施設の駐車場表示について
 二 健康施策について
 三 保育行政について
 四 環境衛生について
 五 子ども議会について

比嘉 敦子
ひが あつこ

一 公共施設の駐車場表示について

質問 車イスマークの看板に内部障害を表すハートプラスマークと妊産婦を表すマタニティマークも加えて表示してはどうか。

答弁 市民部長 わかりやすい表示について検討していく。

二 健康施策について

質問 歯科検診について①乳幼児の歯科検診の受診率、幼稚園、小学生、中学生の虫歯罹患率について②虫歯処理完了者はそれぞれ何%か③八〇二〇運動の一環として表彰制度を設けてはどうか。

答弁 指導部長 ①虫歯罹患率は、幼稚園七十二%、小学生八十二%、中学生八十%、②処理完了者は、幼稚園十二%、小学生は二十二%、中学生は二十四%です。

答弁 市民部長 ①乳幼児の歯科検診の受診率は、七十一%です。③表彰制度については、今後の取り組みというところで計画している。

質問 女性特有のガン対策について①乳ガン、子宮ガン、子宮頸ガンの受診率②子宮頸ガン予防ワクチンの本市の見解について

答弁 市民部長 ①乳ガンの受診率は二十・八四%、子宮頸ガンは二十

一・八六%となっている。②県内市町村の取り組み状況の情報をしっかりと収集しながら検討するべきと認識している。

三 保育行政について

質問 ①認可を希望する保育園は何園か②本市の考え方とこれからの取り組みについて。

答弁 福祉部長 ①把握していない。②保育園の定員増と定員の弾力化等による待機児童対策を推進している。今後は定員増や定員弾力化等による成果、少子化等により児童生徒の動向をみながら対応していく。

四 環境衛生について

質問 砂場の消毒、清掃について。
答弁 福祉部長 (保育園関連) 毎日使用前の点検使用後のカバーかけ、月一回程度の日光消毒。年一度の補充をしている。

答弁 都市計画部参事 (公園内) 砂の補充の必要な箇所は随時補充している。

答弁 教育部長 (学校) 学校側からの要請で砂の補充をしている。

五 子ども議会について

質問 どのように取り組んでいるか。
答弁 教育部長 十一月八日、土曜日に開催する。



ひがし ひろみつ お
東浜光雄

一 基地問題について
二 本市に伝わる文化、伝統芸能の継承発展について

一 基地問題について

質問 本市は原子力潜水艦のホワイトビーチへの寄港は反対の意思を明確に示している。しかし基地問題が遅々として進まないのは市民の基地問題に対する共通の認識と、危機意識が共有されていないからだと思う。そのために日米両政府に訴える力が弱いのではないかと考える。市民一人一人が基地問題を共通の問題として認識し、危機感を共有していくことが基地問題の解決につながると思いが、市民大会を開催し、原子力潜水艦のホワイトビーチ寄港に反対のアピールを内外に示していく考えはないか。また、基地問題は基地所在市町村が確り連携をとり結束していくことだと考えるが、嘉手納飛行場三市町連絡協議会「三連協」へ参加していく考えはないか。原子力潜水艦のホワイトビーチ寄港は、常に放射能漏れへの危機感がつきまといっている。市民を安全に守っていく上から、原子力潜水艦からの放射能漏れを想定した原子力防災訓練を米軍を含め実施すべきと考えるが。

答弁 企画部長

市民大会の開催については、関係部署、上司と相談し検討してみたい。「三連協」への参加については、これ以上の拡大の意向はないとの事務局からの答えがある。

答弁 総務部長

本年三月にうるま警察署、市消防本部と連携をし、原子力艦の事故を想定した応急対応図上訓練を実施している。今後は、国、県と連携をし実動訓練に向けて検討していきたい。

二 本市に伝わる文化、伝統芸能の継承発展について

質問 文化、伝統芸能について、種類の分類、その起源、由来、現在の状況等の調査、研究を地域と連携し行い、整理し、情報として共有し、発信していく必要性がある。また地域に伝わる伝統芸能保持者の指定をし、確かな伝統芸能を継承発展させていく為の体系化が必要だと考えるが。

答弁 教育部長

調査等について実証しながら、体系化に向けて、内部で検討し、関係団体と協議をしながら進めていく。



あげ なまひろ のぶ
安慶名正信

一 インターナショナルスクール誘致について
二 消防行政について
三 うるま市の（平成二十年度～平成二十二年度）実施計画について

一 インターナショナルスクール誘致について

質問 (一) 具志川野外レクセンターは、補助金等の導入事業で、国、県との調整が必要かと思うが。(二) 同センターが雇用している職員の問題等、施設管理者とは十分に協議はされたか。(三) 同センターの設置目的から、単純に廃止する必要があるのか。

答弁 企画部長

(一) 同センターは国庫補助金で建設したものがあり、雇用能力開発機構、沖縄総合事務局と調整をしている。(二) シルバー人材センターの皆さんへ、事業の内容等について説明し、協力とお願いをしている。(三) 学校の持つ大きな波及効果が市民の公益に寄与すると判断した。

二 消防行政について

質問 (一) 今般の消防組織編成方針、組織体制の基本的な考え方。(二) 消防各署の現在の人員配置数。(三) 平安座出張所が設置された経緯と重要性。

答弁 消防長

(一) 平成十九年度に緊急通信指令施設を整備し、通信指令業務を一本化し、的確な初動体制を確立、第二次出動の応援体制は、具志川消防署を中心に、対処していく。(二) 五月一日現在、消防本部十八名、通信指令係十二名、具志川消

防署三十九名、石川消防署二十五名、与勝消防署十六名、平安座出張所十二名、消防学校研修派遣六名で合計百二十八名。(三) 旧離島は、与勝消防署から遠隔地で、消防対応の遅れから災害の拡大、石油備蓄関連企業が位置し、台風時には海中道路が閉鎖など、消防活動の困難等から整備が急務となった。

三 うるま市の（平成二十年度～平成二十二年度）の実施計画について

質問 (一) 東海岸開発構想事業が削除された理由。(二) 平安座小中学校屋内運動場新增改築事業が削除された理由。(三) 与那城自治会公民館建設事業が削除された理由。

答弁 企画部長

(一) 旧与那城町で策定された計画で、壮大な構想です。企画部における全事業について、判断をし平成二十二年度以降に、先延ばししている。

答弁 教育部長

(二) 学校適正化が、うるま市教育振興推進委員会に諮問され、島嶼地域の学校整備計画が保留。

答弁 市民部長

(三) 自治会と協議をしてきたが、地元負担の財政的な問題もあり平成二十一年度事業計画からは削除。再度要望があれば調整し、実施計画にのせたい。



一 上江洲バンタ公園整備事業について
二 人事行政について

宮里朝盛

一 上江洲バンタ公園整備事業について

質問 上江洲バンタ公園は、昭和四十三年に都市計画公園に指定されて

五十年余、調査もされず放置の状態。上江洲自治会は、文書要請、要請行動、市長へ直接要請等を行ってきたが実現せず、現在もなんの対応もなく自治会は五十年間、区民総出（若者から高齢者）で公園の清掃、整備を自前で行ってきた。区民としては限界、行政で整備をと訴えている。市当局はどう対応するか問いたい。

答弁 都市計画部参事 本市で指定した公園が九カ所あり、財政上厳しい。事業の進捗状況も踏まえ、策定中の「みどり基本計画」に網羅し整備していくよう取り組んでいる。

二 人事行政について

質問 一般行政職員、教育職員の健康管理について病休者への対応、長期療養者への支援体制、産業医の活用、常駐保健師の配置、保健相談室の設置等、市当局の考え方を伺う。

答弁 総務部長 行政職員の長期療

養者は二十名、支援体制は、月一回産業医が相談、週一回は健康管理嘱託員が相談等で支援している。

答弁 指導部長 教職員の長期休職者の支援体制は、校長との直接面談、勤務訓練の実地、同僚たちの協力による模擬授業の実施。職場全体でのケア、サポート等の支援体制を実施している。

質問 幼稚園教諭の給与、定数枠教諭の正規職員化、臨時教諭の待遇改善と預り保育について、聞きたい。

答弁 指導部長 幼稚園教諭、臨時教諭の待遇改善と預り保育の改善については、実態把握、アンケート、調査等で把握の上改善に努めたい。

質問 幼稚園教諭の待遇面について私が調べた範囲内では、正職員、臨時職員とも県内十一市の中でうるま市が悪い状態。早めの改善を求める。

答弁 指導部長 臨時職員と本務職員の職務内容の分掌等改善すべきものは、職務の内容においては改善していく。



一 議員定数削減について
二 シルバー人材センター事業のおさらい教室について
三 みどり町地域の公園整備について

名嘉真宜徳

一 議員定数削減について

質問 議員定数を三十四名に決めた主な理由を伺う。

答弁 企画部長 合併協議会の中で三十四名と三十名の意見があったが多数決で三十四名に決まった。三十四名を主張した主な理由は、いきなり三十名では住民に不安を与えるので三十四名でスタートし、その後、市の議会で議論すればよいとの意見が多かった。

質問 職員を三百名減ずる計画があるので議員定数も当然、削減すべきだと思いが当局の所見を伺う。

答弁 総務部長 議会の組織構成の根幹となる重要な要素であり、職員の定員適正化計画と同じ観点からのみ論ずる問題ではなく、執行部においては、その計画を策定することはなじまない。

答弁 市長 合併協議会の会長として、当時の責任ある立場の者として、定数削減の条例案を提案することは極めて困難である。議会自ら判断していただきたい。

二 シルバー人材センター事業の「おさらい教室」について

質問 事業内容について伺う。

答弁 経済部長 うるま市シルバー人材センターが高齢者就業機会確保事業費等補助金を活用した事業で、内容は小一〜小三を対象に授業の学習内容の復習である。現在あげな小で実施、五十二名の児童が申し込んでいる。今後、拡大を図っていきたい。指導は退職教員があたっている。

質問 教育委員会のこの事業に対する所見を伺う。

答弁 教育長 すばらしい事業である。委員会としても、退職教員等を活用した学習支援体制を進めていくよう準備をしている。

三 みどり町地域の公園整備について

質問 現況をどのように認識しているか伺う。

答弁 都市計画部参事 駐車、高木の繁茂、根張りによる足元の悪さ、見通しの悪さなど議員指摘の通りである。大部分は地域住民の憩いの場として活用している。

質問 樹木等を伐採し、見通しが良く、蚊がいない利用しやすい公園に改修できないか。

答弁 都市計画部参事 一カ所の公園をモデル的に改修するのは財政上厳しい。



高江洲賢治

- 一 教育行政について
- 二 地域医療について
- 三 公園管理について

一 教育行政について

【質問】 大分県における教員不正採用事件及び本市在住臨時職員の逮捕があった。沖縄県における教員採用の流れ、本市教育委員会とのかわりについて、また全国学力テストの本

【答弁】 教育長 教育長として教職員の綱紀粛正及び服務規律の確保について校長会、教頭会等で注意を喚起し、子供達の健全育成に尽力していきたい。また教員採用については、本市教育委員会は管轄外になりますので答弁するのは差し控えたい。全国学力テストについては、個々の子供達の力を把握し、一人一人に合う授業を展開していくための工夫改善に努めていく。

【質問】 全国学力テストは税金のむだ使いであり今のままなら不要との指摘もある。また三十人以下学級の実現について市長に伺う。

【答弁】 市長 一概にむだ使いである、あるいはそうでないというコメントはなかなか難しいと自分自身理解をしている。それから三十人学級の件は教育委員会にゆだねていきたいと

基本的な考え方を持っている。

二 地域医療について

【質問】 公的医療機関として県立中部病院の存続の必要性が訴えられている。急病、事故への対応など本市におけるこの病院の存在は市民にとつて多くの恩恵や貢献があるものと考え

【答弁】 市長 中部市町村会で現状を各町村長が確認し、共同で県に要請した。病院側の現状を理解しながら、現在の状況改善に向け対処していきたい。

三 公園管理について

【質問】 サンエーメインシティー横江洲第二公園管理について現在放置状態である。市は業者に対してこの公園で子供達が安全で楽しく遊べるように早急に整備をさせ、定期的に管理させる責任があると思うが、もし業者が管理できなければ市の方で管理できないか伺う。

【答弁】 都市計画部参事 公園整備については、開発業者と協議しながら対処していきたい。市が公園管理をする事については、非常に困難がある。



照屋義正

- 一 新軍転特措法制定に伴う要請について
- 二 米軍再編推進法の関連について
- 三 インターナショナルスクールについて

一 新軍転特措法制定に伴う要請について

【質問】 現行の特措法が平成二十四年に失効するが、その対応について伺う。

【答弁】 企画部長 中部市町村会でも議論をしていくものと考えている。

【質問】 本市には山城地区、楚南の返還予定地区もあり、強力な取組みをお願いしたい。

【答弁】 企画部長 再編特措法の中で今調整している。

二 米軍再編推進法の関連について

【質問】 指定条件について伺う。

【答弁】 企画部長 再編により負担が増加する市町村です。

【質問】 本件における指定市町村について。

【答弁】 企画部長 名護市、宜野座村、恩納村、金武町、浦添市です。

【質問】 指定市町村への交付予定額は。

【答弁】 企画部長 全国三十八市町村で二十年度は約六十一億円です。

【質問】 本市の指定要請の経緯について。

【答弁】 企画部長 本市は候補地になっていないので、要請等は行っていない。

【質問】 新たな施設の建設はなくても艦船、航空機の数の変化等も条件になっている。原子力潜水艦の寄港も一昨年まで平均年七・五回が昨年は二十四回、今年はずでに三十回と異常であり、指定を受けられ

【答弁】 企画部長 原潜寄港の増、普天間代替飛行場の関連でルート等基地の強化

に結び付くことに対して、施設局の赤瀬部長は「法律的な解釈になるので確認する」と言明している。

【質問】 「嘉手納飛行場三市町連絡協議会」への加入について。

【答弁】 企画部長 拡大すると機動性を失うおそれがあると断られた。

【質問】 本市在の陸軍貯油施設は嘉手納飛行場の心臓部である。これまで宮森小学校、栄野比、川崎に二回の計四回ジェット機等が墜落し、二十一人の尊い人命が失われ、一番危険のリスクが高い。三連協としても本市を加入させることにより、北部振興策（約一千億円）と再編推進法の地域指定について強力に国に要請が出るのでは。

【答弁】 企画部長 議員の提言の趣旨も踏まえて検討する。

三 インターナショナルスクールについて

【質問】 同スクールは大学院大学と関連し、本市教育の人材育成に大きく寄与するものと誘致については高い評価をしているが、かつては年間十五万人余の利用があった素晴らしい野外レクセンターを廃止することに、議員はもとより、多くの市民が残念との大反響がある。他所へ検討出来なかつたのかを伺う。

【答弁】 企画部長 県より野外レクセンターの提供依頼があり、東山地区、兼箇段園芸支場跡等数ヶ所検討したが、最終的に候補地として選択した。



永玉 栄靖
なが たまき えいすし

一 学園都市（仮称）誘致について
二 新市の主要施策について
三 財政健全化法に基づく取り組みについて

一 学園都市（仮称）誘致について

質問 具志川野外レクセンタ―は、補助金の導入によるものと思われるが、国、県との調整、行政財産、普通財産の用途又利用状況、使用料等の年間収入、十九年度の利用者、管理委託者への説明会等はどうか。

答弁 企画部長 雇用能力開発機構より有償譲渡、国庫補助金を受け建設。現在それぞれの施設の所管となりその財産について現在調整中。還付金等は、これから調整をし、出てくるとのことです。利用状況は平成十九年度が七万三千七百二十七名で約四千万円ほどの収入がある。地元では一回説明をしている。

質問 国際学校の関連で覚書を旺文社、県、うるま市で結んでいるが、これは自治法第九十六条十一項の「条例で定める重要な公の施設につき、条例で定める長期かつ独占的な利用をさせること」にあたり、議会の議決事項だと思う。当局の考えについて伺う。

答弁 市長 自治法第九十六条十一項については、解釈の相違がある様です。インターナショナルスクールの開校に向けて覚書が締結された後に議会並びに市民の方々に公表して

ということについては、今後この様なことがなく事前に努めて公表できるように、対応して行きたい。

二 新市の主要施策について

質問 主要事業の東海岸開発構想の推進についてはどの様な様になされているか（屋敷名東住宅密集地、敷地島開発、照間地区画整理調査事業等）

答弁 建設部長 屋敷名東密集地の道路新設については、地域から具体的に道路要請があればその時点で調査対応したい。

答弁 企画部長 敷地島については、旧与那城町で計画された構想の中で整備構想がまとまっておりますので検討していきたい。

答弁 都市計画部長 照間地区土地区画整理調査事業については実施計画で平成二十一年度に計画されている。

三 財政健全化法に基づく取り組みについて
質問 自治体財政の悪化度を計る四指標比率を設定するとあります。平成十九年度決算にみる本市の比率はどうなっているのか。

答弁 企画部長 実質公債比率は十二・一％。将来負担比率百六十一％で本市は二番目に高い。返済の財源も乏しく今後無理な借入は避けて行くべきだと考えている。



川野 進也
かわの しんや

一 具志川運動公園内の多目的広場について
二 合併後の新市建設計画について

一 具志川運動公園内の多目的広場について

質問 具志川運動公園内の多目的広場の進捗と付帯施設の内容説明を問う。

答弁 都市計画部参事 工事完成ペースの進捗率は約四十％です。現在、照明施設工事を行っており、トイレ、ダッグアウト、スプリングラーなど発注を計画、今年度中の完成予定である。

質問 二〇一〇年のインターハイサッカー会場として利用されるが、芝の根づきは間に合うか。

答弁 都市計画部参事 今年度中に芝張り工事も完了する。芝の管理はスプリングラー等の散水施設を使い十分時間をかけて養生していく。

質問 造成工事中に大雨で擁壁が何箇所か決壊した事があった。その事も十分に考慮された排水整備計画となっているか。

答弁 都市計画部参事 排水対策は、多目的広場の規模、機能、地質、地形等の自然条件及び既存排水の容量等を検討し、場内に浸透井戸を数箇所、広場の全面に明暗暗渠を設置するなど、総合的な雨水対策を施している。

二 合併後の新市建設計画について

質問 合併協議会で作成された新市建設計画の現在の進捗状況について問う。

答弁 企画部長 合併して四年目になるが、新市建設計画と平成十九年三月に策定された総合計画に基づき、新市の均衡ある発展と住民福祉の向上を図るための、各種事業を展開しており、現在のところおおむね順調に進捗している。

質問 幼稚園・小学校・中学校の整備計画について問う。

答弁 教育部長 幼稚園は、南原・勝連・平敷屋の改築計画を進める。今年度、小学校は中原小学校の校舍増改築とプール及び屋内運動場増改築・田場小学校屋内運動場増改築・津堅小中学校の校舎改築、次年度は与那城小学校の屋内運動場改築・南原小学校の増改築を予定している。

今後は、川崎小学校の屋内運動場改築・伊波小学校の校舎及び屋内運動場増改築・城前小学校の校舎及び屋内運動場増改築・高江洲小学校の屋内運動場改築を計画している。中学校については、与勝中学校の校舎及び屋内運動場増改築・具志川中学校と与勝第二中学校の屋内運動場改築を予定している。



一 保育行政について
 二 インターナショナルスクールについて
 三 市道の整備について
 四 社会体育施設について

喜屋武正伸

一 保育行政について

質問 具志川地区には現在百二十人ほどの待機児童がいるが平成二十一年度の認可化の予定を問う。

答弁 福祉部長 認可化の予定はありません。今後においては定員増や定数の弾力化、少子化による児童数の動向を見ながら対応していく。

質問 国は沖縄特別振興対策調整費を活用し八億円ほどの基金を新設し、沖縄県の待機児童解消に取り組み予定ですが、当局の見解を問う。

答弁 福祉部長 詳細については説明会を開催する様に要請しており、内容を精査し、実施については検討したい。

二 インターナショナルスクールについて

質問 現在のフラットな部分の面積はいくらか。どのようなクラス編成か。また子供たちの送迎の対応方は。

答弁 企画部長 面積については全体で八・七haでそのうち平坦な部分が約三ha程度です。一学年

三 クラスで三十人学級です、一学年九十人程です。送迎についてはスクールバスでの対応になるかと聞いている。

質問 高江洲地区内市道のガードレール設置の要請が提出されているが計画の予定を問う。

答弁 建設部長 地形的にガードレールの設置が必要なので早期に対応したい。

四 社会体育施設について

質問 県道十号線沿いの運動公園駐車場は草木が繁茂しているが草刈清掃の計画を問う。

答弁 教育部長 特に定期的に行っているわけではなく、大きなイベント等があった場合に清掃を行っている。

質問

多目的広場内には大きな木が数本植栽されているが今後の植栽の計画を問う。

答弁 都市計画部参事 広場の利用形態を考慮して植栽計画を考えており、木陰をつくっていくと考えている。

一 教育行政について

質問 各幼稚園のクーラー設置状況は。

答弁 教育部長 設置されているのは、具志川、石川地区。設置されていないのは南風原、勝連、平敷屋、与那城、比嘉、津堅幼稚園の六園です。

質問 幼稚園でクーラー設置がされていない教室等での暑さが原因と思われる健康被害はなかったか。

答弁 指導部長 微熱、鼻血が出やすい、また床に寝転がる幼児が増えたという報告があり、学校医からクーラー設置の関係と報告も受けている。

質問 早急な対策が必要であり、事故等を未然に防ぐ事が行政の責務であると考えが。

答弁 教育長 早急に前向きに検討していきたい。

二 観光振興について

質問 本市の最大の課題は素通り観光からの脱却であるが、どのような取り組みをしているか。

答弁 経済部長 うるま市が誇る最大イベントの闘牛、エイサー、きむたかの阿麻和利等を主軸として、通年定期開催し観光客の誘引を図っていきたい。

三 福祉行政について

質問 福祉関連計画の検証、実証、評価体制はどのようになっているか。

答弁 福祉部長 地域福祉懇話会にお



一 教育行政について
 二 観光振興について
 三 福祉行政について
 四 原子力災害について

下門 勝

いて毎年度、計画の進捗状況を確認し、懇話会委員から提言を受ける体制をとっています。

四 原子力災害について

質問 災害はいつ何時起こるか予想できない。避難計画は作成されているが、それを的確にこなし迅速な避難が出来るよう原子力災害に対する非難訓練等を計画に沿って適宜行う事が地域住民の生命、そして防災業務関係者の二次災害を防ぐ事になる。また訓練を行うことよって課題、問題等がはつきりし、今後の対策に生かせるかと確信している。計画により実効力を持たすため、実動訓練を行う事が必要であるが、訓練の必要性について伺う。

答弁 総務部長 平成二十年三月にうるま警察署や消防と連携し、原子力艦の事故を想定した応急対応図上訓練を実施した。実動訓練については実施していない。

質問 実動訓練が実施されていない以上、この計画はまだ、未完成であると考えている。このことから、早急に、確実に、実動訓練の実施をお願いしたい。

答弁 総務部長 本市にあった住民避難マニュアルを作成し、国、県と協議、連携を図りながら今可能な訓練から検討していきたい。



一 石川西地区土地区画整理組合
二 石川イベント公園の駐車場について
三 国民年金のうるま市の納付率について

久高唯昭くたかただあき

一 石川西地区土地区画整理組合
について

質問 石川西地区土地区画整理組合

は、バブル崩壊等のあおりをうけ、その事業を完了させる事が困難になっている。この事業を完成させるには市当局の強力なバックアップが必要と思うが。

答弁 都市計画部長 平成十七年、

十八年で八千九十万円の助成金、平成二十年度、二十一年度で一億二千九百万円を負担することになっていきます。今後とも同事業の完了につながる支援策を組合と連携しながら慎重に検討していきたい。

二 石川イベント公園の駐車場について

質問 平成十八年に約四千人収容の多目的ドームが完成した。これに見合う駐車場が必要と思うが。

答弁 都市計画部参事 平成二十一

年から二十三年度の三年計画で調査設計、用地買収及び工事と年次的に

整備推進していく計画である。現在の駐車場百四十一台。さらに三百台規模の駐車場を整備する計画です。

質問 石川多目的ドームの前に県道

石川仲泊線があるが、ドームに行くにはそこを横断するため大変危険である。信号機の設置や中央分離帯に安全柵を設けてほしいが、当局の考えを伺う。

答弁 都市計画部参事 関係機関や

三 国民年金のうるま市の納付率について

質問 国民年金の納付率はうるま市は十七・二%で県下十一市の中で最下位である。当局はどのように考えているのか。

答弁 市民部長 納付率が下がると

いうことは、将来の無年金者の拡大につながる、憂慮すべき問題であるのとらえている。職員一丸となって納付率が上がるよう頑張っていく。

米国原子力潜水艦の ホワイトビーチ寄港に 反対する抗議決議(要旨)

平成二十年十月三十一日、米国原子力潜水艦ブレマートンが寄港し、復帰後二番目の長期となる九日間も停泊した。その後も事前の通報なしに寄港していたプロヴィデンス、さらには巡航ミサイルを装備した米海軍最大級の原子力潜水艦オハイオが初めて寄港した。今年の原潜の寄港は、三十六回と過去最多となった昨年の二十四回を大きく上回っており、寄港頻度が突出して増えている状況は異常であり、到底容認できるものではない。
本市議会は、原子力潜水艦ヒューストンの冷却水漏れ事故に対して、その事故原因の究明と詳細についての説明を強く求めているが、詳細な説明がないまま、相次いで原潜が寄港したことは、市民や県民を不安に陥れる全くの住民軽視であり、日米両国政府の責任は重大である。
平成十七年十月に「非核平和都市」を宣言したうるま市議会としても、引き続き国是である非核三原則を踏まえ、今後いかなる理由があるにせよ、すべての原子力軍艦を寄港させないよう強く求めるものである。
よって、うるま市議会は、市民の生命財産と生活環境を守る立場からホワイトビーチへの度重なる原潜の寄港に対し、厳重に抗議するとともに次の事項について強く要求する。

記

1. ホワイトビーチへ米国原子力軍艦を寄港させないこと。
 2. 米国原子力潜水艦の寄港については明確な説明責任を果たすこと。
 3. 日米地位協定の抜本的改定を行うこと。
- 以上、決議する。
平成20年11月17日

沖縄県うるま市議会

【あて先】

米国国防長官 駐日米国大使 在日米軍司令官
在日米軍沖縄地域調整官 在沖米海軍艦隊活動司令官 在沖米国総領事



▲抗議要請行動 11月26日(水) 外務省沖縄事務所

平成20年9月 第40回うるま市議会定例会議決結果

議案番号	案 件 名	議決結果
認定第 1 号	平成19年度うるま市水道事業会計決算認定について	認 定
報告第13号	専決処分の報告について (IT事業支援センター建設第3期工事 (建築))	報 告
報告第14号	専決処分の報告について (中原小学校校舎増改築併行防音工事 (建築A棟))	報 告
報告第15号	専決処分の報告について (中原小学校校舎増改築併行防音工事 (建築B棟))	報 告
報告第16号	専決処分の報告について (土地所有権移転登記手続請求事件)	報 告
議案第78号	平成20年度うるま市一般会計補正予算 (第2号)	原案可決
議案第79号	平成20年度うるま市国民健康保険特別会計補正予算 (第4号)	原案可決
議案第80号	平成20年度うるま市後期高齢者医療特別会計補正予算 (第1号)	原案可決
議案第81号	平成20年度うるま市介護保険特別会計補正予算 (第1号)	原案可決
議案第82号	平成20年度うるま市農業集落排水事業特別会計補正予算 (第1号)	原案可決
議案第83号	訴えの提起について	原案可決
議案第84号	津堅辺地に係る公共的施設の総合整備計画の一部変更について	原案可決
議案第85号	うるま市津堅島介護保険地域密着型サービス施設条例	原案可決
議案第86号	うるま市附属機関設置条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第87号	うるま市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第88号	うるま市議会の議員の報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第89号	うるま市立小・中学校用地取得基金条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第90号	中原小学校校舎増築工事 (建築C棟) 請負契約についての議決内容の一部変更について	原案可決
議案第91号	田場小学校屋内運動場増改築工事 (建築) 請負契約について	原案可決
発議第33号	うるま市議会政務調査費の交付に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
発議第34号	うるま市議会議事規則の一部を改正する規則	原案可決
発議第35号	普天間飛行場の危険性除去及び早期閉鎖・返還を求める意見書	原案可決
発議第36号	普天間飛行場の危険性除去及び早期閉鎖・返還を求める抗議決議	原案可決
発議第37号	嘉手納飛行場から派生する諸問題の解決促進を求める意見書	原案可決
発議第38号	嘉手納飛行場から派生する諸問題の解決促進を求める抗議決議	原案可決
発議第39号	米国原子力潜水艦のホワイトビーチ寄港に反対する意見書	原案可決
発議第40号	米国原子力潜水艦のホワイトビーチ寄港に反対する抗議決議	原案可決
陳情第37号	「普天間飛行場の危険性除去及び早期閉鎖・返還について」「嘉手納飛行場から派生する諸問題の解決促進について」の議会決議について (依頼)	採 択
陳情第39号	地元産品奨励及び地元企業優先使用について (要請)	採 択
陳情第40号	県産品の優先使用について	採 択
陳情第44号	要請書 (認可外保育園に対する助成について)	一部採択
陳情第45号	学校現場の多忙化を解消し、「労働安全衛生委員会」の設置を進める陳情	採 択
陳情第47号	「全国学力・学習状況調査」の公表等に関する陳情	採 択

平成20年11月 第41回うるま市議会 (臨時会) 議決結果

議案番号	案 件 名	議決結果
報告第17号	専決処分の報告について (車輛物損事故)	報 告
議案第92号	昆布公園造成工事請負契約についての議決内容の一部変更について	原案可決
発議第41号	米国原子力潜水艦の事前通報なし寄港に対する意見書	原案可決
発議第42号	米国原子力潜水艦の事前通報なし寄港に対する抗議決議	原案可決
発議第43号	米国原子力潜水艦のホワイトビーチ寄港に反対する意見書	原案可決
発議第44号	米国原子力潜水艦のホワイトビーチ寄港に反対する抗議決議	原案可決
発議第45号	嘉手納エアロクラブ所属のセスナ機墜落事故に対する意見書	原案可決
発議第46号	嘉手納エアロクラブ所属のセスナ機墜落事故に対する抗議決議	原案可決

第42回うま市議会（12月定例会）付議事件名（案）

議案番号	案 件 名	主 管 部
認定第 2 号	平成19年度うま市一般会計歳入歳出決算認定について	企 画 部
認定第 3 号	平成19年度うま市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について	市 民 部
認定第 4 号	平成19年度うま市公共下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について	建 設 部
認定第 5 号	平成19年度うま市老人保健特別会計歳入歳出決算認定について	市 民 部
認定第 6 号	平成19年度うま市介護保険特別会計歳入歳出決算認定について	福 祉 部
認定第 7 号	平成19年度うま市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定について	経 済 部
報告第18号	専決処分の報告について（中原小学校校舎増改築併行防音工事（建築A棟））	教育委員会 教 育 部
報告第19号	専決処分の報告について（中原小学校校舎増改築併行防音工事（建築B棟））	教育委員会 教 育 部
報告第20号	専決処分の報告について（中原小学校校舎増改築併行防音工事（建築C棟））	教育委員会 教 育 部
報告第21号	平成19年度うま市の健全化判断比率及び資金不足比率の報告について	企 画 部
報告第22号	専決処分の報告について	都市計画部
報告第23号	専決処分の報告について（車両物損事故）	消 防 本 部
議案第93号	平成20年度うま市一般会計補正予算（第3号）	企 画 部
議案第94号	平成20年度うま市国民健康保険特別会計補正予算（第5号）	市 民 部
議案第95号	平成20年度うま市老人保健特別会計補正予算（第2号）	市 民 部
議案第96号	平成20年度うま市後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）	市 民 部
議案第97号	平成20年度うま市介護保険特別会計補正予算（第2号）	福 祉 部
議案第98号	平成20年度うま市公共下水道事業特別会計補正予算（第2号）	建 設 部
議案第99号	土地の処分について	総 務 部
議案第100号	うま市市道路線の廃止、認定及び変更について	建 設 部
議案第101号	うま市土地開発公社定款の一部を改正する定款	建 設 部
議案第102号	土地の取得について（石川中学校用地）	建 設 部
議案第103号	津堅小中学校校舎改築工事（建築B棟）請負契約についての議決内容の一部変更について	教育委員会 教 育 部
議案第104号	うま市津堅島介護保険地域密着型サービス施設指定管理者の指定について	福 祉 部
議案第105号	うま市議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例	総 務 部
議案第106号	うま市税条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例	総 務 部
議案第107号	うま市学習等供用施設その他の施設条例の一部を改正する条例	市 民 部
議案第108号	うま市保健相談センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例	市 民 部
議案第109号	いちゅい具志川じんぶん館条例の全部を改正する条例	経 済 部
議案第110号	石川地域活性化センター舞天館条例の全部を改正する条例	経 済 部
議案第111号	具志川野外レクリエーションセンター条例を廃止する条例	経 済 部
議案第112号	うま市営住宅条例の一部を改正する条例	建 設 部
議案第113号	訴えの提起について	建 設 部

平成20年 うるま市こども議会

教育委員会主催、うるま市議会共催の「うるま市こども議会」が11月8日(土)にうるま市議会議場で開催されました。「こども議会」はうるま市初の試みで、市内13中学校から中学生34名がこども議員として選出されました。選出された議員から、「うるま市の合併、環境整備、学校校舎改築について」等のさまざまな質問があり、執行部も議員の鋭い質問に対して、厳しい表情で答弁する場面もありました。

最後に、「うるま市こども議会宣言決議」が採択され、閉会しました。



初めて議会を体験し少し緊張気味

平成20年うるま市こども議会議員名簿

議席番号	氏名	学校名	学年	質問内容
1	賀数 健	具志川中学校	3年	うるま市になって良かったことについて
2	田原 鴻哉	具志川東中学校	2年	大型台風などの災害時の停電や断水について
3	知念 辰明	伊波中学校	3年	食品の偽装について
4	大川 貴史	与勝第二中学校	2年	与勝第二中周辺の歩道と車道について
5	上地 高司	与勝中学校	3年	未成年の飲酒、喫煙防止について
6	内間 美鈴	伊計中学校	3年	伊計島に診療所を設置することについて
7	清島 夕貴	伊計中学校	3年	伊計島が宮城島に消防署の出張所を置くことについて
8	山本真裕子	具志川中学校	3年	環境問題の取り組みについて
9	西野 将立	与勝第二中学校	2年	ガーラ橋の環境整備について
10	山城 海晴	伊波中学校	3年	米軍の騒音対策について
11	喜納 寛野	伊波中学校	3年	部活動の予算カットについて
12	荷川取智仁	石川中学校	3年	うるま市も北谷町美浜一帯のようなまちづくり計画があるかについて
13	島根 桂	高江洲中学校	3年	高江洲中学校の通学路街灯設置について
14	仲本亜佳里	具志川東中学校	2年	具志川東中学校のトイレ整備について
15	石原 純平	石川中学校	3年	うるま市祭り開催について
16	仲村 衿華	与勝中学校	3年	災害時に使える自動販売機の設置について
17	名護 悠	あげな中学校	3年	身体を動かせるスポーツ施設設置について
18	崎浜 美樹	具志川中学校	3年	うるま市の予算について
19	喜納千香子	具志川東中学校	3年	路地にある交差点カーブミラーの設置について
20	仲宗根麻純	津堅中学校	2年	津堅小中学校校舎改築について
21	喜屋武隼勢	高江洲中学校	3年	通学路のゴミ箱設置について
22	徳村 崇人	石川中学校	3年	合併後の予算について
23	前田 夢子	与勝中学校	3年	市民芸術劇場の施設使用料(音響やクーラー等)の徴収について
24	照屋 優人	あげな中学校	3年	あげな城址公園の環境整備について
25	新城安友果	あげな中学校	3年	「あげなげあ」の活性化について
26	○金武沙也香	宮城中学校	3年	合併して良かった点は?また、良くない点について
27	新城 昌隆	高江洲中学校	3年	給食費未納者について
28	宮里 桃子	宮城中学校	2年	宮城中学校校舎や体育館の改築予定について
29	仲田 愛梨	浜中学校	3年	浜、宮城、伊計の学校統合について
30	緑間 恵	津堅中学校	3年	「ごみ減量」の具体的な取り組みについて
31	蔵根 龍史	平安座中学校	3年	ALTの先生の増について
32	柴引 貴子	平安座中学校	3年	海中道路の街灯について
33	前兼久一征	浜中学校	2年	浜比嘉島の西海岸湾岸ビーチ対策について
34	◎久保田明成	与勝第二中学校	2年	与勝第二中の統合について

◎は議長、○は副議長



真剣な表情のこども議員